

大宝元年辛丑、紀伊國に幸せる時に、結

び松を見る歌一首

一四六番

後見むと 君が結べる 磐代の 小松がうれを  
また見けむかも

天皇の聖躬不豫したまふ時に、大后の  
奉る御歌一首

一四七番

天の原 振り放け見れば 大君の 御寿は長く  
天足らしたり

一書に曰く、近江天皇の聖躰不豫したま

ひて、御病急かなる時に、大后の奉献る

御歌一首

一四八番

青旗の 木幡の上を 通ふとは 目には見れども  
ただに逢はぬかも